

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)

令和 3 年度 事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

令和 4 年 3 月 31 日

<令和3年度 総括>

○相談

専門的な協議、助言を求める相談が増えてきており、それに対応しているため、これまで「情報提供」「企画全般」相談としたものの大部分を「専門協議・助言」として実施しています。アーティストやクリエイターのキャリアアップ相談、資金獲得やブランディングに関する具体的な課題解決はもちろん、企業や行政からのまちづくり、福祉、公共空間活用、NFT、放送事業等に関する相談を受けております。

また、アーツコミッション・ヨコハマ事業が文化行政のなかで、先駆的活動を行っていることから、札幌市、北九州市、さいたま市、金沢市、神戸市、神奈川県、長野県、山梨県等の他の地方公共団体からのヒアリングを受け、立ち上げや調査に協力しています。

○助成事業

2016年度からの積み重ねにより、制度として成熟し大きな成果をあげています。若手芸術家を支援するU39 アーティスト・フェローシップ助成においては、資金支援だけではなく伴走型支援を徹底し、国内外へ活動が広がることをサポートしています。結果として、横浜から世界へ羽ばたくアーティストが生まれています。

クリエイティブ・インクルージョン活動助成においては、2021年に開催されたオリンピック・パラリンピックを契機とした、共生社会の実現に向け、様々な芸術やデザインの実験的な活動を支援してきました。結果として、芸術が様々な社会領域で展開される機会を多数生み出しています。これにより、個や社会共同体の内発性が高まり、社会の創発性が高まる状況が生み出され、地域や社会の変化を促し、アーティストが関わる局所的な部分ではありますが、生きづらさの解消などが進んでいます。

また、コロナ禍に安定的に活動ができるように、要綱を変更して前払いできるよう対応しています。

○文化芸術創造都市プラットフォーム

新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、人と出会うイベントをつくるのが難しいなか、オンラインではなく、リアルで開催することにこだわり、「WE BRAND YOKOHAMA」「ハマの大喜利」でクリエイター、企業、行政等が交流する機会をつくりました。前者は都市のデジタル化をはかる国土交通省の3D都市モデル「Plateau」を題材に実施し、後者はコロナで厳しい状況にある中華街の店舗と連携して実施しました。様々なネットワークが生まれています。

○創造都市プロモーション

新型コロナウイルス感染拡大以降のイベントにおける多様な活動の在り方を積極的に発信するとともに、これまでACYで支援してきたアーティストへの寄稿文の他、地域性、同時代性の高い話題をより深く掘り下げて発信しました。また、SNSにおいては、発信数を前年の約2倍以上とすることで、アクセス数も同様に伸ばしました。

○関内外 OPEN!

横浜都心臨海部に集積するアーティスト・クリエイターの活動を広く紹介し、市民が気軽にクリエイティブな活動に触れる機会となる「関内外 OPEN!13」。今年度は、新型コロナウイルス感染症下でも実践できる対話や交流を目指し、屋外空間に期間限定の「創造と実験の場」を作りました。アートやデザインにまつわる展示やトーク、また普段のアトリエや仕事場から場所を移し“屋外ではたらく”ことを通じて、クリエイターのまち「関内外一丁目」を創り出し、クリエイターだけでなく、街を行きかう人も気軽に参加でき、互いに交流できる場が出現させています。

1 相談業務

相談件数(2021年4月～2022年3月) 総数 117

内容	件数	相手方	件数
専門協議・助言	41	アート系	41
助成	18	クリエイター系／創造産業系	37
DB登録希望	17	行政	15
広報	13	一般企業	15
紹介／マッチング	11	市民団体	4
視察／調査／取材	11	大学	4
情報提供	4	その他	1
移転	2	—	—
合計	117	合計	117

2 助成

横浜市では、文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成(クリエイティブ・チルドレン)を幅広く展開しています。また、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを越えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方(クリエイティブ・インクルージョン)をもって、事業を実施しています。これらの趣旨のもとアーツコミッション・ヨコハマ事業として2つの活動助成プログラムを実施しています。

「U39 アーティスト・フェローシップ」は、横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。アーティスト活動へ助成を行っています。これにより、横浜から世界に発信されるアーティストが誕生しています。

「クリエイティブ・インクルージョン活動助成」は、共生社会の実現に向けて、アーティスト、クリエイターによる創造性を活かした社会包摂を試みる多様なプロジェクト(活動)を支援し、アートやデザインの領域で、新たな価値観を確立、芸術が様々な社会領域で展開される機会をつくっています。これにより、個や社会共同体内発性が高まり、社会の創発性が高まる状況が生まれ、地域や社会の変化を促し、アーティストが関わる局所的な部分ではありますが、生きづらさの解消などが進んでいます。

(1)2021年度 U39 アーティスト・フェローシップ

応募総数:47件 (舞台芸術 23件、美術 24件)

採択件数:6件 ※うち継続2件

交付総額:5,000,000円

募集期間:2021年3月1日(月)～4月19日(月)

審査会:2021年5月24日(月)、報告会:2022年3月14日(月)

審査員:

- 小野晋司(横浜赤レンガ倉庫1号館館長、横浜市芸術文化振興財団チーフプロデューサー)
- 木村絵理子(横浜美術館主任学芸員、ヨコハマトリエンナーレ2020企画統括)
- 住友文彦(アーツ前橋館長、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授)
- 藤原徹平(フジワラテッペイアーキテクトラボ代表、横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)
- 山口真樹子(ゲーテ・インスティテウト東京コミュニケーション&広報)

① 荒木 悠（美術家・映像作家） 継続

助成額：1,000,000円

プロフィール：1985年生まれ。異文化間のはざまに着目し、それらを取り巻く事象を再現・再演・再話といった手法で編み直す映像インスタレーションを展開する。これまでの主な個展に「RUSH HOUR」(CAI02、2019年)、「ニッポンノミヤゲ」(資生堂ギャラリー、2019年)、「双殻綱：第一幕」(無人島プロダクション、2017年)、「複製神殿」(横浜美術館アートギャラリー1、2016年)など。展覧会の形式にとどまらず、近年では映画祭でも作品が上映。



サポート内容：中間面談における審査員等によるメンタリングや視察、都度の相談対応など。

本助成で実施した活動：

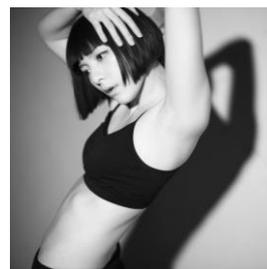
- 『双殻綱：第二幕』制作及び発表(無人島プロダクション)
- 取材@石巻(宮城県)、滞在期間2021年12月1日～12月12日
- 「荒木悠 U-39 フェローシップ活動報告会」(blanClass)

2年間助成を受けて充実した制作環境になった。2年目には技術や機材に妥協することなくクオリティの高い展示を開催、2022年から無人島プロダクション(ギャラリー)所属のアーティストになり、キャリアステップに生かされました。

② ハラサオリ（美術家、振付家、ダンサー） 継続

助成額：800,000円

プロフィール：ベルリン、東京、横浜など複数の都市を拠点として、空間と身体、帰属意識をテーマとしたパフォーマンスや振付作品を制作。近年はデザインや生態心理学を参照したムーブメントリサーチを展開。2021年春、自身のプロダクションカンパニーCo.Sを設立。東京藝術大学デザイン科修士、ベルリン芸術大学舞踊科ソロパフォーマンス専攻修了。2020年第9回エルスール財団新人賞コンテンポラリーダンス部門受賞。



サポート内容：急な坂スタジオ(リハーサルスタジオとして)の紹介や各種相談、視察。

本助成で実施した活動：

- レジデンス制作 (Dance Base Yokohama) 以下の助成対象事業のリハーサル、ワークショッププログラム開催など
- 展示『Odd Apples』(Tokyo Arts and Space) 映像制作、設営、トーク、パフォーマンス1公演
- 公演『カレンデュラ』(京都芸術センター) パフォーマンス3回公演

本活動支援助成によって、コロナ禍においても継続して創作活動ができました。横浜市内での制作活動やそれに伴う拠点や人材とのネットワークを広げられ、そのつながりの中で、今年からドイツの劇場で上演される作品に出演することが決定。現在渡独中です。助成を活用し、横浜で大きな飛躍を遂げています。

③ 北尾 亘（振付家・ダンサー・俳優）新規

助成額：800,000 円

プロフィール：1987 年兵庫県生まれ。幼少より舞台芸術に携わる。2009 年ダンスカンパニー[Baobab]を旗揚げ。単独公演ほか国内外のフェスティバルに参加。振付家として、柿喰う客、KUNIO、木ノ下歌舞伎など舞台作品のほか、映像作品へも多数振付。ダンサー・俳優として、近藤良平、多田淳之介、杉原邦生、山本卓卓などの作品に出演。WS 講師やアウトリーチ活動を日本全国で展開。急な坂スタジオサポートアーティスト。尚美学園大学、桜美林大学非常勤講師。横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション「ベストダンサー賞」ほか、多数受賞。

サポート内容：中間面談の際の審査員等によるメンタリングや視察など。インタビュー記事の制作・出稿。

本助成で実施した活動：

○Baobab第14回本公演 Re:born project vol.3『笑う額縁/UMU-うむ-』（KAAT神奈川芸術劇場＜大スタジオ＞）



自身のカンパニーBaobabの過去作品のリクリエーションにおいて、時代背景や身体性の違いを通して確信的な振付ができるようになった。また、公募オーディションによって若いダンサーとの出会いなどから、表現の新たな可能性を提示しています。同時に制作した映像作品の再生回数は29万回であった。

④佐藤 朋子（アーティスト）新規

助成額：800,000 円

プロフィール：1990 年長野県生まれ、神奈川県在住。2018 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。シアターコモンズ'21 にてレクチャーパフォーマンス「オバケ東京のためのインデックス 序章」を発表。2020 年より青柳菜摘と共同で「TWO PRIVATE ROOMS - 往復朗読」を開催。個展に「MINE EXPOSURES」(BIYONG POINT、秋田、2019)がある。

サポート内容：中間面談の際の審査員等によるメンタリングや視察など。インタビュー記事制作・出稿。

本助成で実施した活動：

○共同制作プロジェクト『103系統のケンタウロス リクリエーション』の実施

本助成前に行っていた、同テーマのリサーチをより広げ、発展させた形でのリサーチが実現できました。また、プロジェクトを制作、醸成する土台となり得るウェブ上のプラットフォームも整えるなど、次につながる活動へとなっています。



⑤佐藤未来（美術家）新規

助成額：800,000 円

プロフィール：2019 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。2021 年より同大学院後期博士課程映像研究科に在籍。現在、オランダと日本を拠点に制作を行う。さまざまな場所のフィールドワークをベースに、そこに住む人々を起用してプロジェクトを立ち上げていく。映像インスタレーション、ワークショップなどを用い、歴史をオルタナティブなかたちで再演することを試みている。主な個展に2020年「Girls Got Golds」puntWG(アムステルダム)、主なグループ展に2019年「Findet mich die Welt?」Galerie 21(ハンブルク)など。令和元年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員。



サポート内容：中間面談の際の審査員によるメンタリングや視察など。インタビュー記事制作・出稿

本助成で実施した活動：

- オランダにてレジデンスプログラムに参加。ギャラリースペースにて、映像インスタレーション作品を発表。
- ロッテルダムの現代美術館 Melly の TENT Online というオンライン上映プログラムに選出

新型コロナウイルス感染症の影響で、帰国が計画通りにいかない等の事情がありました。その中でも、リサーチテーマの変更など、柔軟に対応して創作活動を実施しています。また、オランダの現代美術館でオンラインでの作品上映を行い、機会を得ています。

⑥ 高野 萌美（現代美術家）新規

助成額：800,000 円

プロフィール：幼少期に親しんだコンピューターグラフィックスのピクセルによる図画との類似性から布の経糸と緯糸が織りなすパターンに興味を持ち、布が抱える社会・文化的背景と美術史が混交する地点を模索している。近年は紡ぎ、染め、織り、刺繍など布の製造にまつわる手作業に自ら関与し、できたものをあたかも大量生産された材料であるかのように大胆に使用した平面・立体作品を制作、タイトルとあわせて個の営みが持つ儚さと強さ、現代社会に生きる喜びと虚しさなど、複雑な生の在り方の表現を試みる。



サポート内容：渡航計画、活動計画についての相談、都度の審査員等によるメンタリングや視察など。インタビュー記事制作・出稿。

本助成で実施した活動：

- 箱・カード型の小作品集を制作
- メキシコにてレジデンスプログラムに参加

本助成で取り組んだ小作品集の制作において外部との協働手法を見直し、これまでの分業から、協業になる状況をつくりだすことができたことが成果でありました。また、メキシコでのレジデンスを経て創作活動に幅がで、3331ART FAIRへの参加など、作家としてのキャリアとして前進しています。

(2)クリエイティブ・インクルージョン活動助成

応募総数:47 件

採択件数:5 件

交付総額:4,500,000 円

募集期間:2021年3月1日(月)~4月19日(月)

審査会:2021年5月14日(金)

中間報告会:2021年11月1日(月)、報告会:2022年3月10日(木)

審査員(50音順)

- 岡崎智美(横浜市民ギャラリーあざみ野 担当リーダー/主任エデュケーター)
- こくぼひろし(ひとしずく株式会社 代表)
- 曾我部昌史(建築家)
- 野崎美樹(NPO 法人スローレーベル インクルーシブ・プロジェクトマネージャー)

①手話マップ(代表 木下友威)

「シュワー・シュワー・アワーズ」

交付額:1,000,000 円

【本助成で活動した内容】

ろう者に向けた文化施設情報プラットフォーム手話マップが、自身のホームページの整備と、「シュワー・シュワー・アワーズ」を実施した。「シュワー・シュワー・アワーズ」は、美術館などの展覧会で、ろう者がファシリテートする対話型鑑賞プログラム。芸術作品についてろう者と聴者が自由に対話することで芸術やその鑑賞における環境において、相互理解を深める目的で実施した。

【実施概要】

実施日:第一回 2021年9月26日、10月3日、9日

第二回 2022年3月1日、5日

会場:横浜市民ギャラリー 4階アトリエ

協力:横浜市民ギャラリー、横山佐紀(中央大学文学部教授)

来場者数:累計 105 人

広報物:各回のチラシ、

Facebook:<https://www.facebook.com/shuwamap>

タンブラー:<https://shuwamap.tumblr.com/>

メディア掲載:

- 福祉 WEB マガジン「こここ」による広報
- 「しかくタイムズ」による広報
- アートナビによる広報
- 創造都市横浜での取材と記事出稿
- <https://yokohama-sozokaiwai.jp/person/23896.html>



「シュワー・シュワー・アワーズ」は、様々な文化施設で開催可能なプログラムのフォーマットを作ること为目标に取り組み、その足掛かりとなるようなプログラムを実施、発信を行った。また、手話マップのホームページを作成し、情報発信力とアクセシビリティの向上を行うことで、ろう者に向けての文化施設の情報発信に寄与している。

②特定非営利活動法人心魂プロジェクト（継続）

「難病児・障がい児・きょうだい児・ご家族と プロパフォーマーによるオンラインイベントの開催」（継続）」

交付額：700,000円

【本助成で活動した内容】

2020 年度採択し実施した病児、障がい児、またその家族に向けたオンライン配信プログラムからの発展形。視聴者側だった子どもたちがプロフォーマー側にまわり、「チーム ONE」として、年 4 回のオンラインフェスティバルを行った。

【実施概要】

実施日：サマーフェスティバル： 2021年8月29日
ハロウィンフェスティバル： 2021年10月31日
クリスマス・フェスティバル： 2021年12月11日、12日
大人のための心魂： 2022年1月30日

実施場所：オンライン、心魂シアター、横浜ラポール
協力：トウスフェアリープロジェクト(日本財団、日本歯科医師会)

参加者：プロパフォーマー、患者家族、医療従事者等

見学者：オンライン生出演 延べ 77 名

動画出演 43 名

「チーム ONE+」(一般公募をしたチーム)コーラス参加 35 名/オンライン生出演 24 名

閲覧回数：2,630 回

メディア掲載：東京新聞(2021 年 12 月 9 日)／日本経済新聞(2022 年 2 月 2 日)



劇団四季出身の代表の寺田氏と共同代表の有永氏が、ミュージカル俳優の仲間と協力して継続的に活動することで、子どもたちや患者家族たちが安心・安全に参加し、自分を表現できる場の創出につながっています。さらに、彼らのパフォーマンスを見て新しいメンバーも加わるなど、コミュニティが広がってきている。

③竹本 真紀

「寿町で子どもたちと山車まつりをしたいっ」(継続)

交付額：200,000 円

【本助成で活動した内容】

2019 年度からの継続事業。美術家の竹本真紀氏が寿町の子どもたちや地域住民と共にものづくりを行い、人や地域の交流を促すこと、地域への理解を広げ深めることを目指す取組み。今年度は寿町のお地藏さんにまつわる絵本を作ることを目的に、制作ワークショップや地域住民との交流を行った。

【実施概要】

①「いのりたまご」制作ワークショップ：2021 年 11 月 10 日～12 日

②点灯式：2021 年 11 月 15 日

③「いのりたまご」展示期間：2021 年 11 月 15 日～12 月 24 日

会場：①、②、③共に横浜市寿町健康福祉交流センター

共催：横浜市寿町健康福祉交流センター

発行：絵本「なきむしこぼうずさんと寿町のおじぞうさん」100 冊

※クラウドファンディングにて印刷

動画：https://www.youtube.com/watch?v=ILnR_s-JHXk

協力：健康コーディネーター室 職員 4 名、横浜市寿町健康福祉交流センターにいたおじさん 4 名、吉本直紀(映像作家)、木暮寿子(読み聞かせ)

参加者：展示：680 名/ワークショップ参加者：76 名/メディア取材：朝日新聞横浜支局

住民などから聞き集めた街の歴史などをまとめて誰にでも伝わるように絵本制作を行った。クラウドファンディングで絵本印刷費を集めて完成させ、リターン品として協力者に配布した他、YouTube での読み聞かせ動画の発信や地域の保育園への読み聞かせ訪問などを行い、地域の持つ物語や寛容性を広く伝える活動になった。



④関口祐加

「毎日がアルツハイマー総集編～認知症ケアにおける パーソン・センタード・ケアとは」製作(新規)

交付額:1,600,000 円

【本助成で活動した内容】

2009 年から自身の母を対象にアルツハイマーとそのケア“パーソンセンタードケア”をテーマにしたキュメンタリー映画「毎日がアルツハイマー」(3 部作)を、パーソンセンタードケアの講演活動の際に使用できる総集編(30 分程度)を製作行った。

【実施概要】

実施日:対象期間通して、「毎日がアルツハイマー」3 作品の総集編の映画製作。

実施場所:横浜市内等

広報実績:神奈川新聞掲載、創造都市横浜取材

<https://yokohama-sozokaiwai.jp/person/23210.html>



今年度で、短編映画の製作は完了し、これまでの関口氏自身の作品と活動、認知症ケア(パーソンセンタードケア)へのリサーチが分かりやすくまとまった短編作品となった。自身の講演会のみならず、認知症ケアの講習会などで活用できる作品となった。紀伊国屋書店にて学習ビデオとして取り扱いがある予定。

⑤たばたはやと

「触覚のオープンデザインプロジェクト「HAPTIC OPEN LAB」

交付額:1,000,000円

【本助成で活動した内容】

盲ろうの田畑快仁氏を中心に、インタープリターの和田夏実さんらが「触覚のデザイン」を行うことを試みている。・インタビューリサーチ、・プロトタイプングリサーチ・フィールドワーク・ツールキットの作成・ワークショップを行った。

【実施概要】

実施期間:2021年4月1日～2022年2月28日

実施場所:東京都内、大阪、横浜市内

ワークショップ実施:2022年2月20日14:00～16:00

ワークショップ会場:BUKATSUDO ホール

ワークショップ参加者:13名

協力者:5名

協力:武蔵野美術大学、国立民族博物館、福祉ウェブマガジンこここ等

広報実績:福祉ウェブマガジンこここ 連載記事、創造都市横浜取材



インタビューリサーチは、福祉ウェブマガジン「こここ」での連載記事に、プロトタイプングとフィールドワークで得た知識や触覚はツールキットの制作として、成果物に落とし込んでいる。ツールキットは紙の触覚体験をどのように伝えられるかに取り組み、雑誌の付録や発行物としての商品化など効果的な社会への発信方法を検討。触覚デザインで、多くの人々が一緒に楽しめる、喜んでもらえるものを創ること、サインシステムなど日常の中のデザインの可能性を社会に広げている。

(3)アーツコミッション・ヨコハマ助成報告会

下記2つの助成制度について最終報告会を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に気を付け、ビデオ会議システムと実際の会場のハイブリッドにて報告会を行いました。報告会は、各アーティストや活動主催者のプレゼンテーションを行う第1部、審査員講評を行う第2部、参加者が意見交換の第3部の3部構成で実施しました。

(ア) 2021年度U39アーティスト・フェローシップ報告会

日時：2022年3月14日（月）14：00～17：30

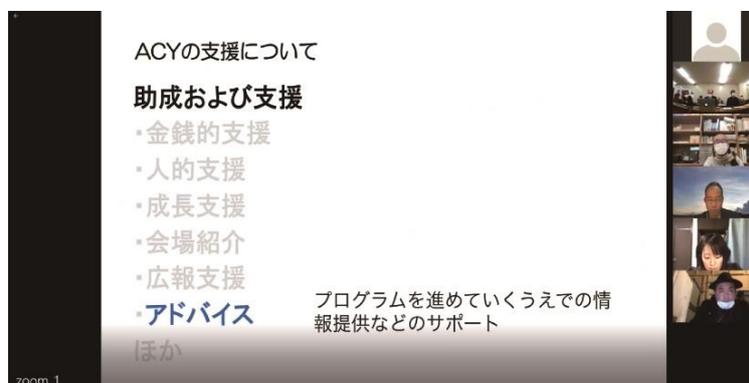
会場：産業貿易センタービル9階 会議室

※荒木悠氏、ハラサオリ氏は、オンラインでの参加

(イ) 2021年度クリエイティブ・インクルージョン活動助成報告会

日時：2022年3月10日（月）13：00～16：00

会場：横浜市芸術文化振興財団事務局、他（オンラインビデオ会議で実施）



3 文化芸術創造都市プラットフォーム

2018年度から続ける「WE BRAND YOKOHAMA」は、3D都市モデルから横浜の未来を発想することを目的に、国土交通省が中心となって開発された3D都市モデル「PLATEAU」をテーマにすえ、2回の勉強会を経て、横浜を拠点に国内外で活躍するイノベーターと共にその活用方法と横浜の未来を考えるワークショップを開催しました。

(1)「WE BRAND YOKOHAMA」



文化芸術創造都市横浜の取組みの一環として、企業、行政、クリエイターらが参加し、横浜から未来を描くイノベーターの創出を目指した学びの場を開催。横浜のステークホルダー・クリエイターと共に実施することで、相乗効果を生み出すための触媒機能を担うプラットフォーム形成へ寄与しました。

■キックオフミーティング第1回

- 日時:2021年8月6日(金)10:30~12:00
- 会場:オンライン
- 参加費:無料
- ファシリテーター:太刀川英輔氏(NOSIGNER)、熊谷玄氏(STGK.Inc)、西田司氏(オンデザインパートナーズ)
- ゲスト:内山裕弥氏(国土交通省都市局)、小林巖生氏(Code for YOKOKOHAMA)、横浜市担当(都市デザイン・都市計画、デジタル推進関連等)、横浜市文化観光局創造都市推進課

■キックオフミーティング第2回

日時:2021年8月19日(木)19:00~20:30

会場:オンライン

参加費:無料

ファシリテーター:太刀川英輔氏(NOSIGNER)、熊谷玄氏(STGK.Inc)、西田司氏(オンデザインパートナーズ)

ゲスト:内山裕弥氏(国土交通省都市局)、小林巖生氏(Code for YOKOKOHAMA)、横浜市担当(都市デザイン・都市計画、デジタル推進関連等)、横浜市文化観光局創造都市推進課、他

■「WE BRAND YOKOHAMA 『デジタルで発想する横浜の未来シナリオ』」

日時：2021年12月13日(月)17:00～20:00

会場：京セラみなとみらいリサーチセンター-INNOVATION SQUARE

参加費：無料

ファシリテーター：太刀川英輔氏(NOSIGNER)、熊谷玄氏(STGK.Inc)、西田司氏(オンデザインパートナーズ)

ゲスト：内山裕弥氏(国土交通省都市局)、小林巖生氏(Code for YOKOHAMA)

コンセプト：横浜のイノベーターたちと共に3D 都市モデルから未来の横浜を発想する。

協力：横浜市、京セラみなとみらいリサーチセンター

受講者：33名

CROSSBIE JAPAN 株式会社、株式会社 Swap、東日本電信電話株式会社、日揮株式会社
公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー、有限会社スタジオニブロール
三菱地所株式会社、京セラ株式会社、株式会社 NTT データ、about your city
横浜市文化観光局、横浜みなとみらいホール、株式会社 DeNA、株式会社コーエーテクモゲームス
サンキヤク株式会社。リベット・デザインデプト、コトラボ合同会社、株式会社 tvk コミュニケーションズ
Peatix Japan、株式会社日立ソリューションズ、NPO 法人シャーロックホームズ/株式会社 HackCamp
SonyPCL、ike atelier、株式会社横浜都市みらい

国交省が主として運営する3D 都市モデル「PLATEAU」を、シビックテックの目線、企業の事業目線などで活用することで横浜にどんな未来が存在するのかをワークショップしました。
多様な領域からの参加者が、異分野交流のアイデアソンをすることで、PLATEAU を軸に領域を横断した様々な活用アイデアが生まれ、これをきっかけに参加者同士のつながりも生まれています。

(2)ハマの大喜利



第4回 開催風景

「もっと横浜を魅力的に、もっとアートやデザインを身近に」を合言葉に横浜の未来に向けて、人の出会い、業界やセクターを越えた横のつながりを生み出す企画「ハマの大喜利」を横浜の経済人、クリエイター、横浜市芸術文化振興財団が共同で実施しています。

■第4回 ハマの大喜利

世話人：株式会社ペガサスエンタープライズ専務取締役 陣恵、常務取締役 陣大介

幹事：菊嶋秀生、岡部祥司

日時：2021年7月28日(水)14:30～16:30 開催

会場：状元樓(横浜市中区山下町 191)

テーマ：地域とレストランの持続可能性を高める Food, Place and Authenticity を踏まえ状元樓(中華街の餐厅)が開発する新たなサービス、商品やPRの企画とは？」

プレゼンター：

アオキジュニヤ(DesignBase)

鬼塚知夏(STGK.Inc)

ノガン株式会社(茂木隆宏、浅野宏治)

参加者：30名

株式会社 KTグループ/YOKOHAMA Station City 運営協議会/tvk コミュニケーションズ

ジェイアール東日本企画/株式会社ロウロウジャパン/STGK Inc/株式会社 旭広告社

イノベディア/横浜赤レンガ倉庫1号館/NPO 法人濱橋会/三菱地所/JCOM/

日本たばこ産業株式会社/横浜市/ジェイアール東日本企画/KADOKAWA

新型コロナウイルスで苦境に立つ、中華街地域、店舗があります。そうしたなか、お題に対して、新サービスや新商品などクリエイターならではの3つのプレゼンテーションが行われました。世話人のみならず参加者からの意見も多数出て、地域全体の活性化につながるアイデアがいくつも話しあわれました。クリエイターと企業の協働のきっかけづくりとして成果をあげています。

■第5回 ハマの大喜利(開催予定)

世話人：山内英志(株式会社アットヨコハマ取締役、横浜トヨペット株式会社執行役員)

東昭人(株式会社アットヨコハマ取締役、株式会社KTグループ専務取締役)

幹事：菊嶋秀生、岡部祥司

日時：2022年1月26日(水)

会場：カフェクリックス

テーマ：株式会社アットヨコハマが運営するアプリ「マイルート」

プレゼンター：

- 椿直樹(TSUBAKI 食堂オーナーシェフ)
- 今井隆造(株式会社プラプラ代表取締役)
- 長谷川篤司(認定NPO法人 ARCSHIP アークシップ代表)

※第5回は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置により来年度に開催延期(2022年6月下旬頃予定)

4 創造都市プロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取り組みについてアートやデザインファンに向けて広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなどを、ウェブサイト(SNS含む)を運用して発信しました。



(1) WEB マガジン『創造都市横浜』

創造都市横浜の魅力を紹介するメディア。Facebook、Twitter等のSNSと連動し、取材・執筆を基本に「読みもの」として情報発信を行いました。

URL : yokohama-sozokaiwai.jp

掲載記事： 32本

Facebook 302本

Twitter 358本

編集方針：アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物としてストーリー性を加えて紹介。クリエイティブな視点で横浜の人や街を取材し、①特集、②ひと、③モノ、④コト、⑤街、⑥食、⑦コラム、⑧イベントのカテゴリーを設け、記事を作成。今年度は、地域の取組や活動を積極的に取り上げるようにしました。

①アクセス数 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

月	アクセス数	月	アクセス数
4月	61,302	10月	61,397
5月	36,783	11月	49,034
6月	45,028	12月	58,726
7月	49,589	1月	71,869
8月	33,206	2月	47,027
9月	49,919	3月	60,682

合計 624,562 (前年 484,499)

②Facebook インプレッション数 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

月	インプレッション数	月	インプレッション数
4月	17,098	10月	42,583
5月	18,224	11月	38,696
6月	25,401	12月	37,302
7月	36,605	1月	61,295
8月	45,235	2月	41,973
9月	46,209	3月	47,034

合計 457,655 (前年 302,431)

③Twitter フォロワー数 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	8,362	10月	8,484
5月	8,373	11月	8,519
6月	8,391	12月	8,596
7月	8,415	1月	8,660
8月	8,418	2月	8,667
9月	8,445	3月	8,736

合計 102,066 (前年 98,201)

(2) 横浜市クリエイターデータベースの運営

ACY の活動の成果として、都心臨海部に集積するアーティストやクリエイターの力を市内の事業に繋ぎ、さらに横浜の魅力を生み出し発信していくことを趣旨に、グラフィックや WEB 等のデザインに関わるクリエイターのプロモーションのための検索・紹介機能に優れたサイト「横浜市クリエイターデータベース」の運用を行っています。

【概要】

名称：横浜市クリエイターデータベース

URL <https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase/>

内容：クリエイターの制作事例、得意分野提案、会社概要を紹介するページで構成されたサイト。

今年度、ユーザビリティ向上のため、企業名検索窓を設置する改修を行っています。

登録者数：68 組（うち今年度 11 組、前年 57 組）

登録者；グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っているデザイナー、もしくはその方が代表者を務める法人等。

利用者想定：企業、行政各部署、NPO 等

2021 年度アクセス数 217,762（前年 208,879）

(3) アーツコミッション・ヨコハマ ウェブサイト

URL：<https://acy.yafjp.org/>

2021 年度サイトアクセス数：661,046（前年度 628,269）

経年変化するウェブサイトのユーザビリティに対応するため、マイナーチェンジをはかっています。

5 関内外 OPEN ! 13



昨年度は、コロナウイルス感染症を受けて、オンラインでの実施となりましたが、今年度は、コロナウイルス感染症下でも実践できる対話や交流を目指し、屋外空間に期間限定の「創造と実験の場」を作りました。

アートやデザインにまつわる展示やトーク、また普段のアトリエや仕事場から場所を移し“屋外ではたらく”ことを通じて、クリエイターのまち「関内外一丁目」を創り出し、クリエイターだけでなく、街を行きかう人も気軽に参加でき、互いに交流できる場が出現しました。

(1) 開催概要

日程：2021年11月3日（水・祝）～7日（日）各日11時～17時

会場：関内えきちか広場（横浜市中区尾上町2周辺） 料金：入場無料（一部プログラム有料）

主催：関内外クリエイター各事業者、アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

共催：横浜市文化観光局

ディレクター：安食真（Studio NIBROLL）、岡部正裕（voids）、小泉瑛一（about your city）

サブディレクター：鬼塚知夏（stgk）、萬玉直子（オンデザイン）

パビリオン設計・構造デザイン：田中麻未也（タナカマミヤアーキテクト）、村上翔（SCALA Design Engineers）

協力：原崎寛明（CHA）、アスカコヤマックス株式会社、オンデザイン、CoUen、サンキヤク株式会社、山手総合計画研究所、YOXO BOX、慶應義塾大学ソーシャルファブリケーションラボ

参加スタジオ数：58組

参加者：2,212名

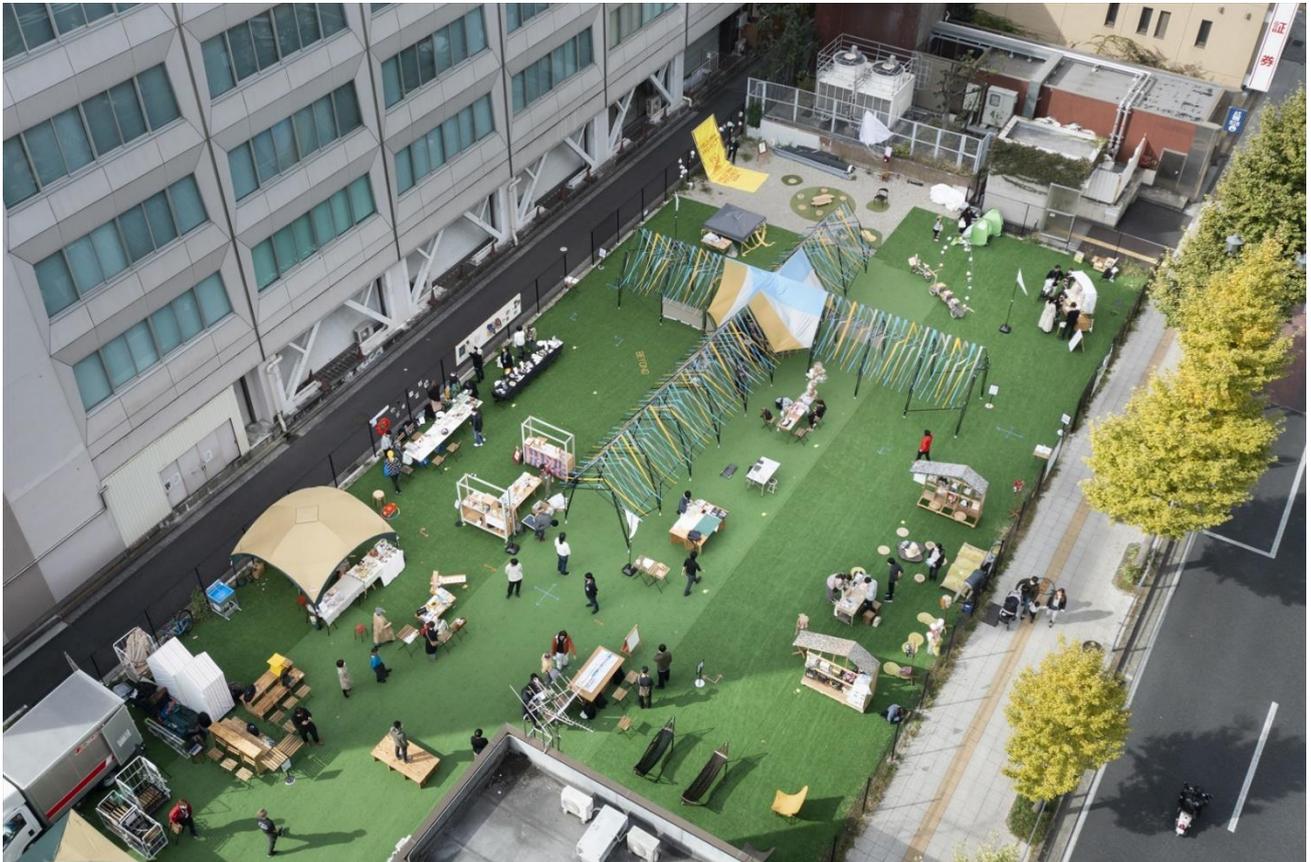
(2)参加スタジオ等

	スタジオ名		スタジオ名
1	アートコネクトヨコハマ	26	045 total design works
2	アートスペース「と」 関内	27	THE DARKROOM INTERNATIONAL
3	I ☆ N FACTORY	28	tt unit
4	アイトゥーン	29	DesignBase
5	A samicro	30	tenjishitsu:T ü r aus Holz 常盤町
6	アスカコヤマックス株式会社 & 無敵庵	31	トートアーキテクトツL a b
7	認定 NPO 法人あっちこっち	32	とぎにわ
8	a bout your city	33	tokiwa202
9	アルファデザイン	34	似て非 works
10	Art n' English Studio	35	ピクニックルーム
11	飯田善彦建築工房	36	ファブラボ関内
12	ike atelier	37	BUKATSUDO
13	abanba	38	BUKATSUDO YOGA 部
14	stgk	39	藤棚デパートメント
15	オンデザイン	40	プラプラックス
16	kad ltd.	41	ブルーコンパス
17	KoUen	42	ボイズ
18	コンテンポラリーーズ	43	mass×mass 関内フューチャーセンター
19	SITE BAY YOKOHAMA	44	明蓬館高校 横浜・関内 SNEC/CONEC
20	櫻井計画工房	45	八板建築設計事務所
21	さち庵	46	ライフデザインラボ
22	サンキャク	47	LAUNCH PAD GALLERY
23	G Innovation Hub Yokohama	48	THE RABBITS' BASE/ブレ恋！制作実行委員会
24	studio Irodori 建築設計事務所	49	若葉町ウォーフ
25	STUDIO NIBROLL & Lab.		



(3) 会場パビリオン

“創造と実験の場”と称した仮想の街「関内外一丁目」として、実際の対話や交流を目指した。細長い敷地の三方を囲む道路にそれぞれエントランスを作り、敷地内に交差する二つの道を形成。エリアを用途ごとに分割しつつ、対流を促す十字型のパビリオンは、会場周囲の“関内のまち”を引き込み、会場を公共空間へと変化させました。



空き地をコモンズとして活かす試み

横浜の都心部と言える関内の中心にぽっかり空いた空間に道を引き込み、普段はそれぞれの事務所の中で行われているクリエイターの創造的な活動を見せる場にすることで、道行く人々が気軽にそれらの活動に触れられる、ニューノーマル時代のオープンスタジオを目指しました。また、同時に新しい関内の街の像を模索する試みでもあります。

会場は2m×2mのグリッドで区切られ、会期中毎日そのレイアウトや出展者が変わる。パビリオンの中央にあるドームで行われる井戸端会議のログが会場に記録されるなどの参加者の痕跡が残る仕掛けや、椅子や什器を設えすぎず「チェアリング」のような来場者が好きな場所に好きな家具を持ち寄れるような仕掛けを取り入れ、関内外一丁目というコモンズを自分たちで育てていく感覚をレイアウト計画の中心に据えました。

6 ドックヤードガーデン活用事業(施設名:BUKATSUDO)

ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社（横浜市、三菱地所（株）、三菱地所プロパティマネジメント（株）、（株）リビタ、当財団）で協力し運営しています。

“大人のためのシェアプレイス”をコンセプトに作られた施設は、6 年を経過しみなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。コロナ禍においては、みなとみらいの施設が時短や閉めるなかで、継続して施設を運営し、ステイホーム中の住民などの憩いの場となりました。町のソフトインフラとしての役割を担うようになっていきます。今年度、初の試みとして、「BUKATSUDO 利用に関する意識調査」を行いました。

〈「BUKATSUDO 利用に関する意識調査」概要〉

ドックヤード活用事業として実施されている BUKATSUDO について、これまでの振り返りとして、利用者の意識調査をおこないました。新型コロナウイルス感染症拡大後に変化する社会において、オフィスや住居の環境が大きく変わっているという状況を踏まえ、BUKATSUDO の価値において何かしらの変化があると仮説し検証しました。

以下大きく分けて 4 つの項目について調査した

1. BUKATSUDO の利用者属性
2. BUKATSUDO の情緒価値、機能価値
3. BUKATSUDO がもたらす MM 地区への影響
4. BUKATSUDO 利用者が、横浜の文化・芸術や創造性についてどのように捉えているのか。

実施期間 : 2022 年 2 月 9 日～2 月 28 日

調査対象 : BUKATSUDO 利用者約 9,000 名

調査手法 : メール配信での回答依頼

オンラインフォーム回答 有効回答数 : 469

実施主体 : ドックヤードガーデン活用事業運営協議会

調査事務局 : 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

調査協力 : 株式会社リビタ

令和3年度 ヨコハマ創造産業振興事業 報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

令和4年3月31日

横浜市文化観光局が掲げる文化芸術創造都市・横浜施策に基づき、「ヨコハマ創造産業振興助成」、「ミナトノアート 2021」を実施しました。

1. 2021 年度ヨコハマ創造産業振興助成

横浜都心臨海部にクリエイターが集積していることを背景に、その創造性を新たな街の魅力として活かすべく、企業やクリエイター等が実施する、公共空間活用、観光・商業促進、教育、福祉、環境問題等に向けた取り組み、また、芸術やデザインのビジネス化に資する取り組みを支援しました。これにより、芸術やデザインの新たな可能性を広げ、また同時に社会の可能性を広げることで、今後の横浜の創造産業の振興、持続的な成長に寄与しました。具体的には、助成の制度設計、公募、審査、採択、伴走支援、広報支援等を行っています。

(1) 助成概要

応募総数: 21 件 (第 1 回審査会 10 件、第 2 回審査会 11 件)

採択件数: 5 件 交付総額: 4,000,000 円

募集期間: 2021 年 4 月 26 日(月)~5 月 17 日(月)【第一回審査会締切】
2021 年 7 月 16 日(金)【第二回審査会締切】

審査会: 第 1 回 2021 年 5 月 31 日(月)、第 2 回 2021 年 7 月 26 日(月)

審査員: 飯石 藍 (公共 R 不動産コーディネーター/株式会社 nest 取締役)

田中 浩也 (慶應義塾大学 SFC 環境情報学部教授)

治田 友香 (関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役)

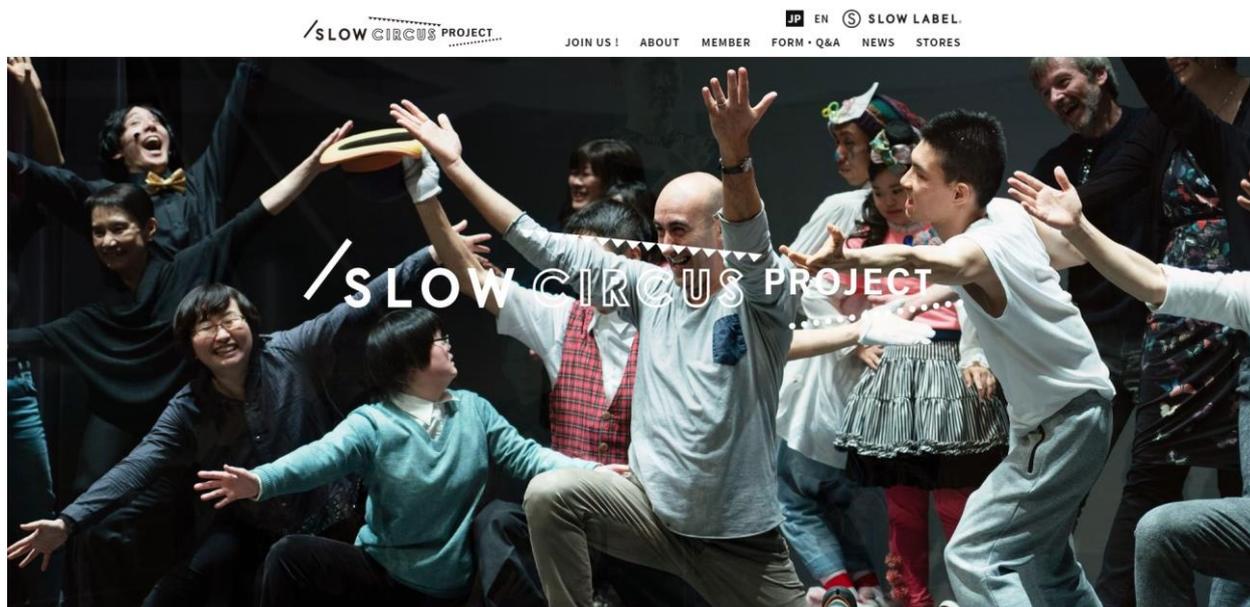
(2) 採択事業

① 特定非営利活動法人 スローレーベル(代表: 理事長 栗栖良依)
SLOW CIRCUS PROJECT ブランディング事業 交付額: 1,300,000 円

【内容】

2019 年に日本で初めてのソーシャルサーカスカンパニーとして立ち上げた「SLOW CIRCUS PROJECT」。サーカスのエクササイズを通じて、障害者、ひきこもりなど社会に出ることに課題のある方を対象に、半年間で協調性、ストレス耐性、創造力、コミュニケーション能力、危機管理能力等、社会で生き抜く上で必要なソーシャルスキルを身につける活動を全国に広げています。

これを持続可能な経営としていくために、本助成を活用して、ブランディング、マネタイズを強化、ミッション、ビジョン、バリューを整理してホームページ等のプロモーションツールを制作しました。また経営戦略についても、企業研修関係者やエンターテインメント関係者と協議を重ね、次年度以降の中長期的なプラン策定。横浜からアートやデザイン、パフォーマンス、社会課題への取り組みが融合した新しい領域の産業を発信、社会の変革に取り組んでいます。



② 株式会社よこはまグリーンピース（代表 椿 直樹）

横浜 18 区の人とまちがつながる TSUBAKI 食堂 18 区井プロジェクト 交付額:1,000,000 円

【内容】

2021 年より TSUBAKI 食堂で始まった「横浜 18 区井」。1 月 1 区、月の前半と後半に分けて、それぞれの区で採れた野菜はもちろん、人、商店、歴史などにもスポットを当てた「井」に仕立てて提供するプロジェクトを実施しています。

横浜は、市域の約7%に当たる 2,850ha の農地があり、市内農家の農業産出額は約 112 億円と推計、県内では第1位です。ただ、横浜が、都心のオフィス街、郊外の住宅地としてのイメージが強いなかで、実は農業が盛んな地域であることは、あまり知られていません。本助成を活用し、「横浜 18 区井」をブランディング、プロモーションすることで、横浜の自然環境や、地域の人材や活動、それらの魅力を広く届ける取り組みが行われました。本取り組みは、浅間台小学校、瀬ヶ崎小学校、県立商工高校、日本体育大学との学校と行ったメニュー開発や、ドイツ語圏の方が多く住む都筑区のドイツ文化の紹介など、農業と食を軸に市内の人々の文化的交流の促進にも寄与しています。



③ 渡辺篤

「アイムヒア プロジェクト」新スペース立ち上げ 交付額:950,000 円

【内容】

現代美術家の渡辺篤は、不可視の社会問題である「ひきこもり」をテーマに、その元当事者として孤立と向き合う方とともに活動しています。それは、芸術領域のみならず、社会／文化／福祉／心理 といった様々な分野に及ぶものです。今回、本助成を活用して、弘明寺にアートを社会と共有していくスペースをオープンさせました。本拠点形成は、オーナーの不動産会社・泰有社と協力して行われ、地域とアートとの接点として活用されたり、孤立に悩む人々に開かれたりしています。弘明寺の紹介記事に本スタジオが掲載されるなど、街の新たな価値として発信力向上に寄与しています。



④ 吉川ゆゆ

子どもがつくるお仕事メディア「NARIWAI」のメンバー制度の確立と活動拡大 交付額:250,000 円

【内容】

子どもによる子どものためのお仕事メディア「NARIWAI」は、小学生で構成される「子ども取材班」が取材、レポート作成、編集している WEB メディアです。学校や家庭教育とは異なる視点で、アクティブラーニングの要素を取り入れ、取材内容の検討、進行、ロゴやイラストの作成も子どもたちが行っています。生業を持つ大人に取材することで「働く」と「お金」について、子どもたちに考えるきっかけを提供するものです。

今回、「子ども取材班」の新規メンバー、協働してくれる大人スタッフの拡充のため、象の鼻テラスでのアートイベントへの参加、各種プロモーションを展開の企図し、本助成を活用しました。結果として子ども 7 名、大人 3 名の新規参加者があり、活動、取材の幅を広げることができています。子どもにアートやデザインを身近にする機会をつくり、子ども目線でアートや街、人の魅力を発信しています。



⑤ about your city

モバイルエコステーション 交付額:500,000 円

【内容】

本活動は、横浜の街が「ゴミが落ちていない、歩いて楽しくなる街になること」が目的です。ゴミが落ちていない街＝地域の人々が愛着を持っている街という印象を与えると仮説し、本助成を活用して、モバイルエコステーション(正式名称:)をプロダクト開発。街を巡回することで街の美化活動に気軽に参加する人が増えるかの実験を行いました。また同時に自主的な美化活動の負担軽減となるツールとなりうるかも実験しました。自転車ならではの可動性を生かして、街の様々な場所へ出張できる利点、目立つプロダクトとして広告塔としての役割を持つ点などが確認でき、清掃活動をしたい人を巻き込む準備を進められました。収益化について課題はあるものの、イベント的にゴミ拾い活動を行う団体や企業などへの貸出も行うことでビジネスとなる可能性があるため、連携先を増やすことを今後実践し、横浜発の新たな社会課題解決のデザインとして発信していきます。



2. ミナトノアート 2021

(1) 趣旨

アートの創造性を生かして、魅力あるまちづくりを行う文化芸術創造都市横浜。「ミナトノアート」は、横浜中心部にあるアート関連業をネットワークし、プロモーションすることで、それらを横浜の新たな魅力づくりに寄与していく企画です。日頃から横浜ならではの活動を発信している民間事業者と連携しながら、港町らしい多様性や進取性といった気質をアート、クラフト、デザイン、ヴィンテージ、フードなどの展示・販売等で表現。街の回遊性を意識し、会場となった店舗等 84 ヶ所を同時にプロモーションしました。これにより自宅の近くにアートなどが買える場があることの認知を広め、市民がアートをもっと身近に感じ、もっと気軽に体験できる機会としました。

(2) 開催概要

実施期間 2021年11月20日(土)～28日(日)

来場者数 10,000人

会場 横浜都心臨海部 84会場

〈広場のイベント〉

- ・横浜駅ナカ・ギャラリーショーケース 11月20日(土)、21日(日)
- ・元町ストリートアート 11月20日(土)、21日(日)
- ・馬車道駅ナカ クラフト&ヴィンテージマルシェ 11月27日(土)、28日(日)

HP <https://minatonoart.jp/>

SNS ・Instagram <https://www.instagram.com/minatonoart/>

・Facebook <https://www.facebook.com/minatonoart/>

・Twitter <https://twitter.com/minatonoart>

〈運営体制〉

主催：ミナトノアート 2021 事務局 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

幹事：田口竜太郎 (Gallery+Sushi 三郎寿司あまね)、内藤正雄 (favori inc.)

大野愛 (画家)

共催：横浜市文化観光局

協力：YOKOHAMA station city 運営協議会

みなとみらい線 | 横浜高速鉄道株式会社

横浜元町ショッピングストリート

〈デザイン、映像、WEB制作、記録〉

タイポグラフィ：大原大次郎

アートディレクション：三村漢 (niwa no niwa)

デザイン：大貫茜 (niwa no niwa)

WEBエンジニア：亀谷晶太郎

映像制作：岩崎秀証

音楽制作：ARUGOM

〈参加店〉

1. Photo Bar 【sa-yo:】
 2. アーキシップライブラリーカフェ
 3. ギャラリーミロ
 4. 永興ビル
 5. hair salon Labo
 6. youth vintage
 7. 勝烈庵 馬車道総本店
 8. SDN-YOKOHAMA
 9. BLAUBERG an der KÜSTE
 10. 素敵眼鏡MICHIO
 11. cafe&shop kaguya
 12. GALERIE PARIS
 13. MARCY'S
 14. LANDER
 15. Haight Ashbury
 16. OdiOdi
 17. Mozmene
 18. BALANCE FLOWERSHOP
 19. かもめのばー tenjishitsu:Tür aus Holz常盤町
 20. 裏千家茶道教室SHUHALLY
 21. 10watts field & gallery
 22. 特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜
 23. antique?
 24. ローズホテル横浜
 25. 重慶飯店本館
 26. 爾麗美術
 27. 1010美術 1010Art Gallery
 28. Art Baboo 146
 29. 悟空茶荘
 30. art Truth
 31. G8DSTAND
 32. black&white
 33. 横濱ワイナリー
 34. スマイル ネオン
 35. ArtGallery山手
 36. Ikeda Schmuck
 37. 岩崎博物館(ゲーテ座記念)
 38. STAR JEWELRY the shop & museum
MOTOMACHI 元町本店
 39. 山手資料館
 40. Peace Flower Market & Cafe
 41. Butter Vintage
 42. FEI ART MUSEUM YOKOHAMA
 43. グラスルーツ
 44. 横浜高島屋
 45. ニュウマン横浜
 46. YELLOWKORNER YOKOHAMA
 47. エキュートエディション横浜
 48. そごう横浜店
 49. 伝統横濱スカーフMarca
ランドマークプラザ店
 50. BUKATSUDO
 51. PATISSERIE KIA
 52. Aonoha
 53. miñangos Antiques & Sundries
 54. THE BARRACK動物園通りAbbey
 55. 一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ
吉田衛記念館
 56. 星羊社 stockroom NOGE
 57. UMEYA
 58. King Roti
 59. 株式会社クロコアートファクトリー
 60. グリーンサム
 61. PaSHMiNa HINODE●BOUEKI
 62. Gallery+Sushi三郎寿司あまね
 63. あまね区
 64. MAGO GALLERY YOKOHAMA
 64. 香炉庵
 66. 横濱元町霧笛楼「Café Next-Door」
 67. BASE-1
 68. タカラダ
 69. ダニエル元町インテリアスタジオ
 70. SYMPATHIQUE サンパティーク
 71. 大槻工房
 72. 有限会社オフィス・メイプル
 73. Tully's COFFEE & TEA 横浜元町
 74. ATELIER.K ARTSPACE
 75. sheol
 76. Restairs
 77. art gallery OWL-アウル
 78. plus.m cafe gallery
 79. LAUNCH PAD GALLERY
 80. やまのうえ
tenjishitsu:Tür aus Holz山元町
 81. たけのま
tenjishitsu:Tür aus Holz竹之丸
 82. 手音
 83. 三和交通株式会社
- 元町ストリート会場
Ten4 Art Studio (ワークショップ)
ヌイト (ワークショップ)
アンイースタジオ (ワークショップ)
Mai yah Hi (ワークショップ)

(3) プログラム

横浜の魅力満載！まちなかを巡るアートフェア

横浜の中心市街地に点在し、横浜ならではの新しいアートやデザイン、文化の発信を目指しているギャラリーや、ショップ、カフェなど、84の拠点等が参加し、まちなかを巡るアートイベントを実施しました。お客様は、各店こだわりのアートやデザインをご覧いただき、ものづくり体験、買い物や飲食などをお楽しみいただきました。



MAGO GALLERY YOKOHAMA ©東玄太



1010 Art Gallery ©Kayocompose



Gallery+Sushi三郎寿司あまね ©東玄太



横浜吉田町永興ビル壁画公開制作 ©東玄太



たけのま ©東玄太



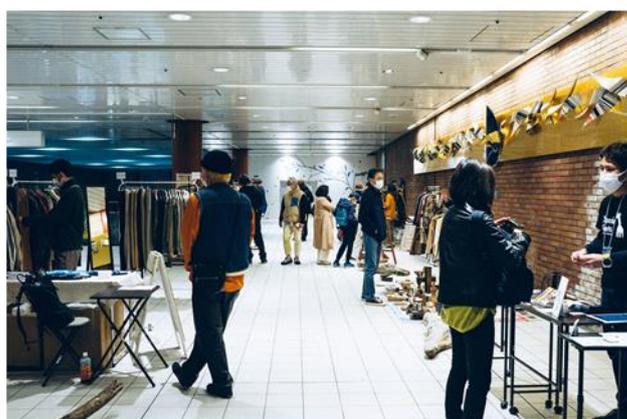
BALANCE FLOWER ©Kayocompose

駅ナカや広場で、もっと身近に、もっと気軽にアート体験を。

参加店のほかに、主催として、元町ストリート、横浜駅、馬車道駅など、人の往来の多い場所にアートプログラムやマルシェを展開し、気軽にアートに親しんでいただける工夫をしました。元町・中華街駅、馬車道駅には、インフォメーションブースを展開し、まちの回遊性を高める工夫を行いました。



©東玄太



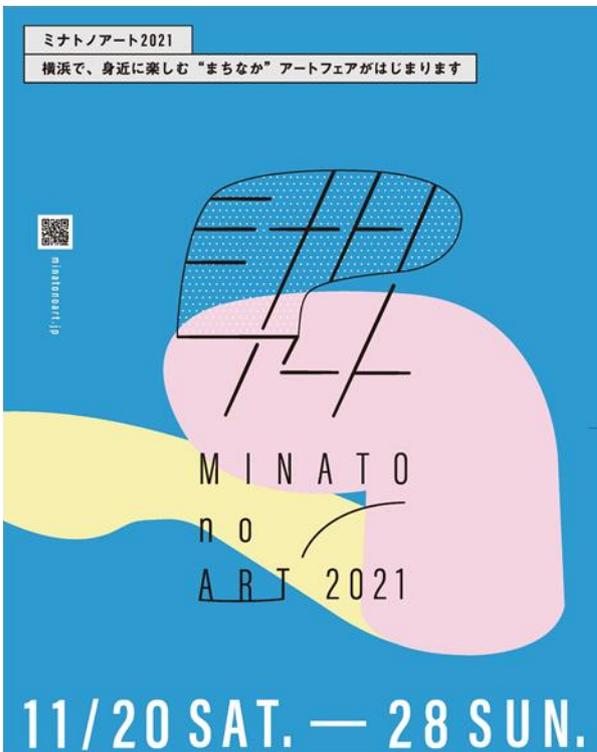
©Kayocompose

(4) プロモーション

① 制作物



当日配布マップ A2 十字折 裏表10,000部



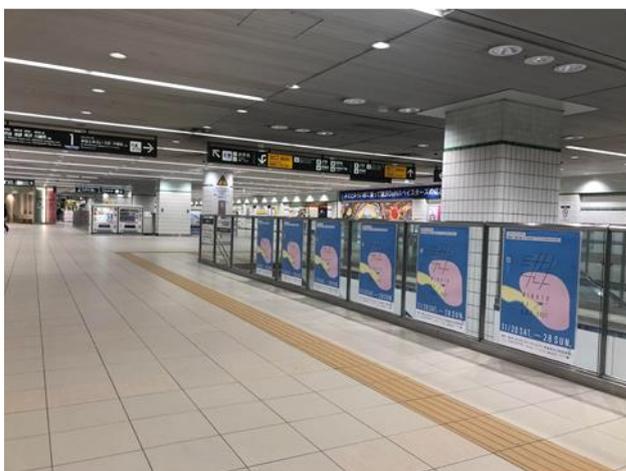
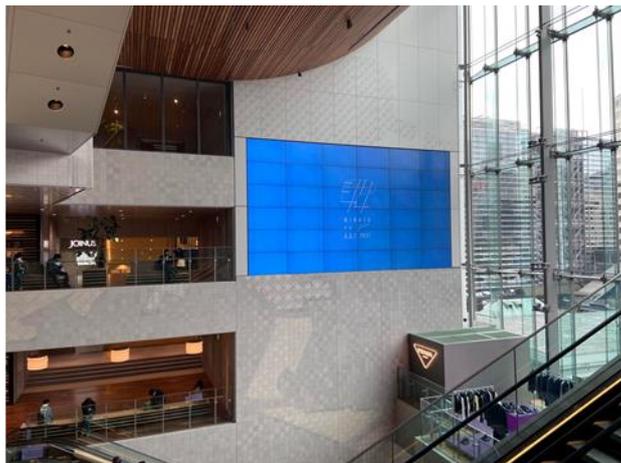
港町・横浜にあるギャラリーやショップ、百貨店など約80会場

【主催】 港区・横浜市長官舎地区まちづくり推進協議会 【協賛】 横浜文化振興会 【協力】 YOKOHAMA Station City 横浜文化振興会 ANOMACHU

事前配布フライヤー A4 表裏 7500枚



② 駅ナカ広告、SNS プロモーション



ポスターB2 200枚作成 各所掲出

【掲出ご協力】

- JR横浜駅、JR横浜タワー2階
大型サイネージ、ポスター他掲出 期間：2021年10月31日～11月28日頃まで
掲出箇所：中央北改札内・中央南改札内・南改札内
- 横浜高速鉄道 横浜駅、新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅、日本大通り駅、元町・中華街駅
ポスター、フライヤー掲出 期間：2021年10月29日～11月28日頃まで
- そごう横浜店 B1エントランスほか、参加店、商店街など ポスター、フライヤー掲出



Instagram「#オウチノアートキャンペーン」来場者投稿参加型のキャンペーン。

賞品

- ・ 写真集『風をこぐ To Row the Wind』橋本貴雄（提供：ミナトノアート2021事務局）3冊
 - ・ 2022年卓上カレンダー（画家・大野愛）3冊（提供：大野愛）
 - ・ gallery + sushi三郎寿司あまねオリジナル狩集広洋塗り絵 + 澁谷忠臣【不撓不屈】ステッカー10セット（提供：同店）
 - ・ tenjishitsu: Tür aus Holz オリジナル缶バッジ 10セット（提供：favorisinc.）
 - ・ そごう美術館 ムーミンコミックス展招待券 20枚（提供：そごう横浜店）
 - ・ クリスマスキャンドル10個（提供：横浜高島屋）
- 応募19件、当選19件、送付19件

③メディア掲載実績

No	メディア名	形態	掲載日
1	はまこれ横浜	ネット記事	10月20日
2	はまぴた	ネット記事	10月20日
3	LINE NEWS (ラインニュース)	ネット記事	10月20日
4	週刊アスキー	ネット記事	10月20日
5	ORICON NEWS	ネット記事	10月20日
6	iza (イザ!)	ネット記事	10月20日
7	産経ニュース	ネット記事	10月20日
8	@DIME (アットタイム)	ネット記事	10月20日
9	財経新聞	ネット記事	10月20日
10	CREA WEB	ネット記事	10月20日
11	Traicy (トライシー)	ネット記事	10月20日
12	30min. サンゼロミニッツ	ネット記事	10月20日
13	BEST TIMES (ベストタイムズ)	ネット記事	10月20日
14	Infoseekニュース	ネット記事	10月20日
15	エキサイトニュース	ネット記事	10月20日
16	JBpress (日本ビジネスプレス)	ネット記事	10月20日
17	PRESIDENT Online	ネット記事	10月20日
18	時事ドットコム	ネット記事	10月20日
19	@niftyビジネス	ネット記事	10月20日
20	STRAIGHT PRESS	ネット記事	10月20日
21	現代ビジネス	ネット記事	10月20日
22	BIGLOBEニュース	ネット記事	10月20日
23	BtoBプラットフォーム	ネット記事	10月20日
24	暮らしニスタ	ネット記事	10月20日
25	おたくま経済新聞	ネット記事	10月20日
26	フジレビュー!!	ネット記事	10月20日
27	読売新聞オンライン	ネット記事	10月20日
28	朝日新聞デジタルマガジン & [and]	ネット記事	10月20日
29	eltha (エルザ)	ネット記事	10月20日
30	ウレぴあ総研	ネット記事	10月20日
31	ハピママ*	ネット記事	10月20日
32	ジョルダンニュース!	ネット記事	10月20日
33	横浜ウォーカーWEB	ネット記事	10月22日
34	マイルート (トヨタ)	アプリ+ネット記事	11月2日
35	peatix	アプリ	11月3日
36	マリンFM	FM放送	11月4日
37	ヨコハマよみうり	紙面+PDF	11月5日
38	日本経済新聞横浜支社	紙面	11月10日
39	フィガロジャパン	ネット記事	11月13日
40	ヨコハマ経済新聞	ネット記事	11月15日
41	神奈川新聞社	紙面	11月18日
42	タウンニュース	紙面+ネット記事	11月18日
43	サルース	紙面+ネット記事	11月19日
44	東京新聞	紙面	11月20日

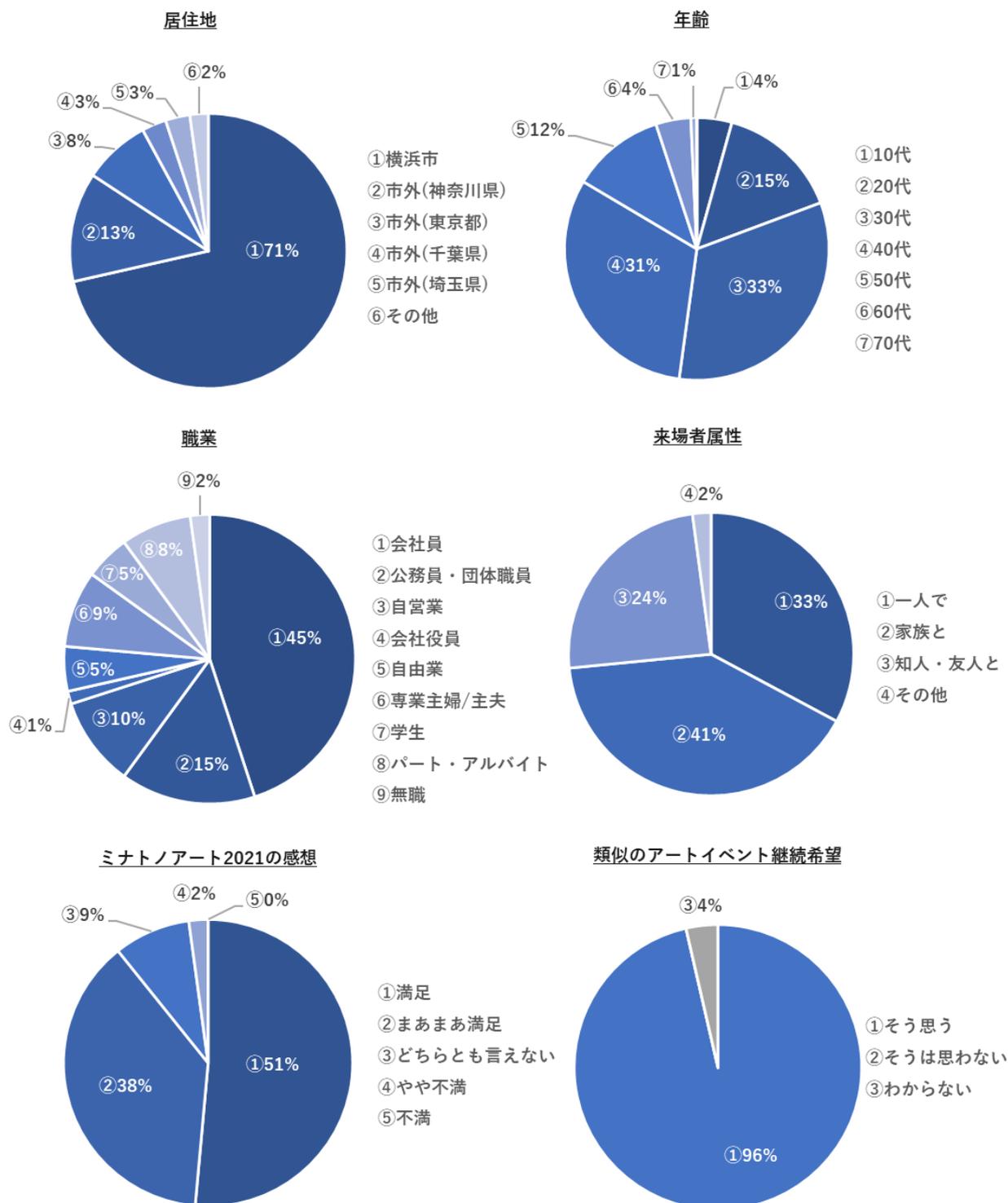
(5) 来場者アンケート

来場者アンケート

実施期間：2021年11月20日（土）～28日（日）

実施方法：質問紙の配布 / google Formによるオンライン回答

回収結果：質問紙 36件/フォーム回答104件 計140件（※複数回答以外 N=140で集計）



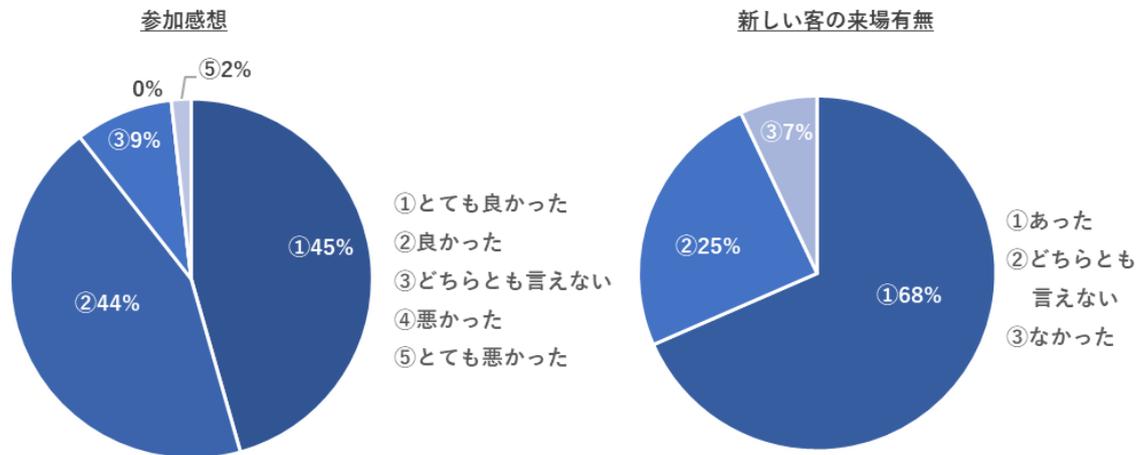
(6) 参加店アンケート

参加店舗アンケート

実施期間：2021年12月22日（水）～2022年1月12日（水）

実施方法：Google Form によるオンライン回答

回収結果：フォーム回答55件 / メール回答2件 計57件（※複数回答以外、N=57で集計）



ミナトノアートを契機として交流、ビジネス連携等の有無

